

アメリカザリガニ幼体捕獲用人工水草の構造と使い方

NP0 法人シナイモツゴ郷の会 長谷川政智・高橋清孝

1. アメリカザリガニの幼体

雄では全長 55 mm から 60 mm に達すると性的に成熟して繁殖が可能 (Suko 1954) になることからこの大きさの成熟個体以外は幼体とみなすことができる。これまでにしばづけで捕獲したアメリカザリガニで成熟が確認された最小型は、全長 60 mm, 頭胸甲長 22 mm であったことから、捕獲個体の中で成熟に達しない生物学的最小型以下のサイズを小型の幼体とし小型個体とし、それ以外を大型個体とした。

2. 養殖用ノリ網を使ったしばづけ (人工水草)

捕獲を始めた当初、餌によりアナゴ籠等で捕獲される個体は大きく、成体が優先して捕獲され、小さな個体はあまり捕れなかった。小さな個体を捕獲する方法を検討したところ、杉の枝葉を使った「しばづけ」にはヌカエビと一緒にアメリカザリガニの全長 60mm 未満の小型個体も一緒に捕獲されることから 2016 年から大きな保護ため池の方で、連続捕獲装置に加え「しばづけ」もあわせて設置し、大型個体と小型個体を一緒に捕獲した。

杉の枝葉を使ったしばづけは、捕獲数が設置後 2 か月間程度は安定するが、それ以降は枝葉が落ちて捕獲数が減少した。杉の枝葉に代わる素材として養殖ノリ網を使った方法を考えた。養殖用のノリ網を折りたたんで小さくしそれを 2 つ合わせ 1 つのしばづけとした。養殖用ノリ網を使ったしばづけは、期間を通じ捕獲量が大きく減少することなく捕獲することができ、杉の枝葉を使ったしばづけの代用として使用できることがわかった。2020 年 10 月現在もこのノリ網による捕獲が継続して可能であることから 長期間の使用が可能と思われる。

3. 養殖用ノリ網を使ったしばづけ (人工水草) の使い方

杉の枝葉を使用したしばづけは岸辺から 2m 以内の水深が 1m 未満のところに沈めて置く。1 週間後にしばづけをそっと持ち上げその後下へさで網をいれてしばづけごとすくい上げる。そしてしばづけを上下に振り、集まったアメリカザリガニをさで網に落として捕獲する。しばづけはまた沈めて設置し。養殖用ノリ網を使ったしばづけも同じように使う。現在、設置する水深や沈め方などで捕獲数が変化するか実験中である。

2018 年に小さなため池でのみ生息が確認されていた水生昆虫のミヤケミズ

ムシが、大きなため池でも大量に見られるようになった。2019年の秋には養殖ノリ網を使用したしばづけ（人工水草）でその卵が確認でき、翌2020年春には小さな幼虫も多数確認することができた。また、小さなため池では、羽化まで2～3年かかるとされるトンボの1種のコサナエ、さらにモノサシトンボやアジイトトンボなどのイトトンボ類が例年10匹に満たないのが20匹以上と多く見ることができた。夏には、養殖ノリ網を使ったしばづけにモノサシトンボなどの小さなヤゴが集まっているのを確認できた。これは養殖ノリ網を使ったしばづけが水生昆虫にとって水草などの生活の場としての役割を果たしているのではないだろうか？今年の捕獲結果と今後の捕獲技術の更なる進展が楽しみである。また、来年にはさらに多くの生物を見られることを期待したい。



杉の枝葉とノリ網によるしばづけ1基あたりの平均捕獲数

